

一四四 講社祭一六八

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に

慎ん

で申し上げます

” 月日にはにんげんはじめかけたのは よふきゆさんがみたいゆへから “

と仰せ下さいましたが 私達は早くから栄えある” 月日のやしろ “であり

” ひながたの親 “なる教祖の道具衆としてお引き寄せ頂き 洵に感謝の

念に堪えません

その中にも今日の吉き日はこれの

の月次祭の日柄に当たります

ので 只今から一手一つに勇んで陽氣づとめを勤めさせて頂きます

さて 去る十月の秋季大祭に於いて真柱様は 教祖百二十年祭の仕上げの

年を迎えるに当たり ” このお道が迫害や干渉の無い往還道に出られたと

は云え それだけに救け一条に對する氣のゆるみや停滞が懸念される 一つの

日か親神様のお望みになる世界一列の陽氣ぐらしを必ず実現するのだとい

う強い信念を固め 一歩一歩足元から陽氣ぐらしの輪を拡げていくことが

肝心である “と申され 仕上げの年を歩む決意と態勢をお示し下さいまし

た

” いつもたすけをせくからに はやくよふきになりてこい “

と仰せられた教祖のお言葉を味わいつ、

一、おかきさげの精神に戻り親心を深く悟ろう！

一、かぐらづとめの信仰を芯におぢばへおぢばへと向おう！

を今年の合言葉として いよいよ成人の道に拍車を掛けて参りますがどうか

親神様には思召し通りの陽氣ぐらしの輪が 更に広く大きく私達の周辺

に拡がって参りますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

ます